

青少年センターから皆さんへ

Interview



少年の主張長野県大会
優良賞受賞
萩原 彩帆さん
(三郷中学校3年)

発表の様子は長野県将来世代応援県民会議YouTubeをご覧ください



たくさんの人に支えられて

9月に開かれた少年の主張長野県大会で、萩原彩帆さんの「たくさんの人に支えられて」が応募のあった815作品から優良賞を受賞しました。萩原さんは、学校を欠席する日が多くなったものの、周囲の支えで再び登校できるようになった経験を発表しました。

周囲の支えでできた再登校

私が学校を欠席する日が多くなったのは、昨年の2学期です。さまざまな悩みが積み重なり登校できなくなった私を支えたのは、両親でした。家にいる時間が長くないから一緒に外出し、「いつでも味方だからね」と寄り添ってくれました。「学校を休む」という選択を尊重してくれたことが力になりました。先生も電話をくれたり、登校しやすい環境を整えたりしてくれました。こうした支えのおかげで、連続して欠席する期間が短く済み、再登校できるようになりました。

悩みを話せる場所があります 学校や教育の相談窓口

学校での交友関係やいじめ、進学や進路、不登校などの悩みを相談できます。電話での相談も受け付けます。

平日 9:00~16:30
場・園教育相談室(豊科公民館内)
TEL72-2238

「いつも通り」が大きな安心に

私が発表したテーマは、決して楽しいことではありません。だからこそ、感じたことを自分の言葉で伝えたいと考えました。大会では、私と同じ悩みを抱える子どもが周囲にいる人へ向けた思いも発表しています。私は、再登校した時にいつも通り接してくれる友達がいたおかげで、安心することができました。特別扱いせずに見守る周囲の優しさは、再登校した子どもの支えになるはず。大会後、うれしい出来事がありました。それは、発表を聞いた小学生のいとこが「不登校の人が学校に来たら、話しかけてみる」と言ってくれたこと。私の思いはしっかり届いたのだと実感しました。この大会で、伝えたいことを一生懸命伝えようとしたことで、自分の思いを理解してもらえ喜びを学びました。

Report

穂高地域青少年育成連絡協議会講演会 命の参観日

他者を理解し違いを認め合うことを考える講演会が11月9日、穂高交流学習センター「みらい」で開かれました。シンガーソングライターの玉城ちはるさんが、文化の異なる人と共に生きる難しさと大切さを自身の経験を交えて話しました。オリジナルソングも披露し、柔らかな歌声に感動して涙する参加者もいました。

参加した島田祐子さん(豊科)は「優しい歌声に心が洗われた。日頃からいろいろな人と対話することを心掛けたい」と話してくれました。



オリジナルソングを歌う玉城さん

文化施設 展覧会・イベント情報

施設名	展覧会・イベント	日時・場所	費用・定員・申し込み
貞享義民記念館 Tel.77-7550	三郷美術会春季小品展	期3月8日(土)~23日(日) 場1階企画展示室	無料
穂高交流学習センター「みらい」 Tel.81-3111	田淵行男記念館友の会写真部 作品展 自然へのまなざし	日3月19日(水)~23日(日) 9:00~17:00 (最終日は16:00まで) 場展示ギャラリー	無料
	自然へのまなざし 作品講評会 調小口和利さん(自然写真家)	日3月23日(日) 15:00~16:00 場展示ギャラリー	無料
穂高陶芸会館 Tel.82-6750	春の親子陶芸教室	日3月23日(日) 午前の部 9:30~11:30 午後の部 13:30~15:30	中学生以下の子どもと保護者 保護者1,040円、中学生以下830円 各回7組(先着順) ※1組最大4名まで 日3月1日(土)から電話で
臼井吉見文学館 Tel.71-5123 Fax.71-5127	春の講演会 『言論統制』増補版の射程 - ブラックリストと投書階級 調佐藤卓己さん(上智大学教授、京都大学名誉教授)	日3月23日(日) 13:30~15:00(開場13:00) 場堀金公民館講堂	無料 定100人(先着順) 日2月25日(火)から電話、ファクス、電子メール(bunshokan@city.azumino.nagano.jp)

■休館日、開館時間などは各施設へお問合せください。
■安曇野高橋節郎記念美術館は、改修工事のため3月31日まで長期休館します。

第29回 コラム 市誌編さんだより 中世への胎動

安曇野市誌編さん専門委員会
考古部会 原 明芳

昨年のNHK大河ドラマ「光る君へ」は、源氏物語の作者・紫式部の生涯を描いた作品でした。物語の舞台は、平安時代中期の平安京。貴族社会が華やかに栄える一方で、律令政治は揺らぎ始めていました。

奈良時代に始まった税制は機能しなくなり、人々は重い税から逃れようと村を離れます。政府はそれまでの人への課税をやめ、土地に課税する方式へと変更しました。それを受け、有力農民たちは村を離れた人々を集め、新たな耕地の開墾を進めます。市内でも、9世紀後半から堀金・三郷・豊科地区に竪穴建物を造り、住み始めました。しかし、人々は長く住み続けることはせず、有力農民のもとを離れたり集まったりを繰り返す状況が11世紀末まで続きました。



中国の龍泉窯で焼かれた青磁他谷遺跡(穂高)出土

物や食器の発掘例はほとんどなくなりません。これは、暮らしの証拠を残さないほど頻りに人々が移動を繰り返したためかもしれない。しかし、穂高の他谷遺跡や豊科の吉野町館遺跡からは、当時としては珍しい中国産の白磁や龍泉窯系青磁がわずかに出土しており、都の貴族と結びついて耕地の開発を推進した有力者の存在を示しています。

10世紀・11世紀の200年間は、貧富の差が広がり、古代から中世への移行期だったといえます。